

第2期香美市教育振興基本計画への意見募集（パブリックコメント）に寄せられたご意見と回答（案）

番号	意見内容	市の考え方(案)
1	<p>学園都市の強み全体構成について この計画の本編が 33P から 47P だとすると、全体の構成について工夫が必要だと考えます。このことから、以下の取組をおこなってはどうか。 ①3P から 22P は資料編に移動する。</p>	<p>計画書は、計画の概要→教育をめぐる現状→第1期計画のふりかえり→本計画の取組 という流れで構成しており、全体のページ数がさほど多くないことから「教育をめぐる現状」部分をあえて資料編に移動するよりも、本計画の全体像が理解されやすいと考えています。</p>
2	<p>②2.「第1期計画の進捗と評価」の流れが分かりづらいです。 23P の評価は、24P から 28P の取組をしているけれどもこの評価です。と言うことでしょうか。総合評価と「施策体系の3つの視点ごとの主な取組実績と成果は以下の通りです。」という表現への繋がりに違和感があります。(普通は成果から評価への流れでは?) 流れを良くするには2つの方法があると思います。 プラン A 第1期計画の総合評価の表は削除するか、残す必要があれば「総合評価を行いました」の部分に*でも付けて資料編に移動してはどうか。また、「一定の成果」についても同様に*でも付けて資料編に移動してはどうか。 これらのことで「計画の進捗状況」と「第1期計画における課題のまとめ」のつながりが分かりやすくなると思います。また、その際には、繋ぐ言葉として「改善が必要な状況です。」の後に、「また、アンケートの結果等を踏まえると主に以下の課題があることが分かります。」の様な言い回しでアンケートに触れることも必要だと考えます。 プラン B 「第1期計画の進捗と評価」を「(1)第1期計画における取組」「(2)アンケート調査と外部評価」「(3)第1期計画における課題のまとめ」という流れに再構成する。 私のお勧めはプラン A ですが、プラン B の方向性でとりまとめる場合でも*の使用をお勧めします。24P から 28P の取組について本編に書き込みたい場合でも全体を2ページ程度にまとめる工夫が必要ではないかと考えます。</p>	<p>23P の総合評価は、計画における全施策を対象に毎年度、内部評価と外部評価を行っている結果を数値化したものです。この総合評価の対象になっている施策・事業は教育委員会の全施策・全事業となるため、計画書では簡潔にまとめました。 24P から 28P の取組については、そのなかから本市の特徴的な取組について抜粋して具体的に記載することで、市民への周知を図ることを目的にしています。 以上の通り、23P の総合評価は、24P から 28P に記載した取組だけを対象にしたものではないことから、24P に新たな見出し「(2)第1期計画における新たな取組と主な実績」を設定します。</p>
3	<p>32P から36P までの流れですが、33P の図の説明が34P と言うことになっていますが、説明があつて分かりやすく図で表すのが普通だとも思います。33P と34P を入れ替えて、図をもう少しコンパクトまとめることで32P から34P までを2P でまとめてはどうか。</p>	<p>基本理念→基本理念を達成するための3つの基本目標の設定→3つの基本目標それぞれの主旨、の流れで記載していますので素案の通りとさせていただきます。</p>
4	<p>35P の基本視点は計画全体に通底するものとされていますので、46P の後におく方が分かりやすく、34P から36P への繋がりもスムーズになると考えます。</p>	<p>34P の基本目標は施策体系のそれぞれの基本目標の説明であり、35P の基本視点は施策体系すべての施策に通底する横断的視点として記載しているため、計画の内容の前に記載するべきだと考えています。</p>
5	<p>言葉遣い、言い回し等について 1P 「未来を創る人づくり」人は誰かがつくるものではなく、様々な環境の中で育ち、つくられるものだと思います。国は教育基本法の第一条で、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。」と教育の目的を示しています。 人づくりはいかにも上から目線です。前半が必要であれば人が育つや、めざす人の姿や全体の言い回しを受ければ、人が、基本法に沿えば人の育成が適当ではないかと考えます。</p>	<p>全体を通して、言葉遣い、言い回しについては、香美市教育振興基本計画検討委員会における審議結果等を踏まえて、事務局内で検討と協議を重ねて作成した文章となりますので、内容に不都合がなければ基本的には変更いたしません。表記として分かりにくい等についてはご意見の通り修正を行います。 変更点は各ご意見に対する市の考え方の欄に記載しています。</p>
6	<p>「質の高い教育」この言葉が何を指しているのか分かりません。言うことによって出来たつもりになる、やったつもりになる言葉の典型ではないでしょうか。「学ぶ力が育つ多様な学びの場」等の方が想像しやすいのではと考えます。</p>	
7	<p>「生涯にわたる成長と学びの場」これも上記と同じ臭いがします。「生涯にわたり学びに向かうことができる環境」等の方が「進化する自然共生文化都市」別名「探究あふれる 学園都市 香美市」にぴったりではないでしょうか。</p>	
8	<p>「地域住民」大学や高等学校等では地域外からも沢山の方々がステークホルダーとして関わっており、それらの方々も環境も含めて私たち香美市とすることが大切だと考えます。このことから、協働推進計画でも定義付けられている地域住民を含めたより幅広い概念である市民の方が適切ではないかと考えます。また、「生涯にわたって学び続ける人」は、「それで初めて」と言うニュアンスが強く感じられることから、削除するか、若しくは、学びは双方向性があることを思えば、「生涯にわたって学び合える」等の方が適切ではないかと考えます。</p>	

番号	意見内容	市の考え方(案)
9	「香美市よってたかって教育」このことに関してはこれまでも意見を述べてきましたので、繰り返しはしませんが、使用はせいぜい生涯学習フォーラムの際のみにして、その他の場面では、使用を控える方が賢明だと考えます。	「香美市よってたかって教育」については、令和5年度市議会12月定例会議一般質問における教育長答弁の通り、次期計画においても引き続き使用する方向です。 (答弁の概要) 教育振興基本計画検討委員会においては、本市の教育の特性を一言で表現しているキャッチフレーズであり、令和4年度に実施したアンケート結果でも保護者を中心に一定浸透しているという意見があった。現状、代替表現がないことから、引き続き使用する方向である。
10	よってたかって教育の説明文は2Pのものとの整合するようすべきだと考えます。 例えば、2Pの文を修正すると、香美市の「めざす人の姿」の実現に向けて、市民が協働しながら行う教育活動をいいます。等になるでしょうか。	「香美市よってたかって教育」の言葉に込められた思いを1Pの説明文で表現しています。
11	1Pについて細々とコメントしましたが、上から下、下から上への流れが分かりづらく、また、計画全体の構成については、33P及び36Pで示されていることから全体を削除することが最善だと考えます。	1Pは第1期計画で掲げた方向性を踏襲し、その成果を一層広げ、深めることを視覚的に表現したものと掲載しています。
12	2P 4行目「自らが社会を創り出していけるように」⇒「社会の形成者として必要な資質を身に付けられるよう」 13行目「沸き起こる」感情に訴えかける言葉で、言うだけでやった気になる典型的なものだと考えます。⇒「行われている」または「展開されている」 15行目「一層発展させ」⇒「踏まえながら」	「自らが社会を創り出していけるように」を「社会の形成者として必要な資質を身につけられるよう」に修正します。
13	30P 18行目「相互学習により、地域の課題解決に向けた実践」教育業界での言い回しだと思われる。意味が違わなければ言い換えた方が良いのではないかと考える⇒「協働 活動」 最終行「地域も巻き込んだ、香美市ならではの「よってたかって教育」の実践を一層進めていく必要があります。⇒「市民が協働しながら行う教育活動を」	「相互学習により」⇒「協働により」に修正します。
14	32P 1行目「香美市を学びの舞台とし」意味するところが分かりません。本市が舞台で主人公が一人ひとり？市民はスターでしょうか？現場では様々な苦労が山のようにあるのではと思いますが。⇒「削除」 9行目「こうした状況……これまでのさらに一段上を目指して」⇒「これらのことから、本計画では新たな基本理念として「郷土を愛し、探究的に学び、未来を創る人の育成」を掲げ、教育全般の振興を図るとともに、生涯学習の充実推進に向けた取組を進めます。」 上記の書き換えを行い、「(1)基本理念」の説明を削除し、「1 基本的考え方」を「基本理念」とする。	
15	34P 1行目「を踏襲しつつ一段階先を目指す」⇒「からの課題や社会状況の変化等も踏まえ」 5行目「、質の高い」⇒「ことに軸足を置いた」 10行目「を中心に据えた教育の実践を進めます」⇒「に応じた教育への取組を目指します」 13行目「豊かなつながりと」⇒「多様なつながりを基礎とした」 18行目「深めるよう促します」⇒「深められるような環境整備を図ります」 下から4行目「大学のあるまちという」大学があることが学園都市という呼称の条件でありあえて言い重ねる必要はないのでは？⇒「削除」「学園都市の強み」⇒「学園都市であることの強み」 下から3行目「生み出す」⇒「描く」 下から2行目「の実践を通じて」⇒「に親しむ機会を通じて」 最後の行「生きるまち」⇒「生きられるような環境が整った」	
16	35P 8行目「学習者の視点に立った」⇒「一人ひとりの状況に沿った」 15行目「創り出して行くことが求められます」⇒「目指していくことが大切です」 19行目「探究教育」⇒「探究的な教育」 20行目「探究を深める活動を推進します」⇒「探究的な教育活動の推進を図ります」 22行目「幸せに長生きできる」⇒「幸せで長生きをする」 下から2行目「を実現するために……目指します。」⇒「の実現に向けては、生涯学習果たす役割が大きいことから、生涯学習活動の活性化を目指し、必要な環境整備も図ります」	「一人一人の価値観に合ったウェルビーイングを実現するために、生涯学習が果たす役割は大きく、個人の成長のみならず、社会全体のウェルビーイングにつながることを目指します。」⇒「一人一人の価値観に合ったウェルビーイングを実現するために、生涯学習が果たす役割は大きいことから、生涯学習活動の活性化により個人の幸福と成長を促し、ひいては社会全体のウェルビーイングにつながることを目指します。」に修正します。

番号	意見内容	市の考え方(案)
17	37P 本文8行目「社会変革を実現していく」⇒「社会の変化に対応していく」 9行目「質」⇒「内容」	
18	41P 本文3行目「必要」⇒「重要」 6行目「感動体験を重視することによって」⇒「様々な体験を通して」 8行目「ふるさと……………必要となっています」⇒「一人ひとりの子どもたちがそれぞれのふるさとを心を持つことができるようになるためには、香美市の宝を生かした多様なふるさと教育の推進が欠かせません」	「必要」⇒「重要」に修正します。 「感動体験を重視することによって」⇒「様々な体験を通して」に修正します。
19	43P 本文9行目「豊かな」⇒「多様な」	「豊かな」⇒「多様な」に修正します。
20	44P 本文1行目「これからの劇的に変化する」⇒「劇的に変化するであろうこれからの」 2行目「に合った新しい方法」⇒「に応じた新しい対応」 5行目「のきっかけとなります」⇒「のきっかけとなる場合があります」 5行目「活用して、子どもたちの発想力を育む教育が必要です」⇒「活用することで、子どもたちの発想力が育まれるような取組を進めることが大切です」 最後の行「な機会が必要になります」⇒「になることを目指した機会の創出が必要になります」	「これからの劇的に変化する」⇒「劇的に変化するであろうこれからの」に修正します。 「に合った新しい方法」⇒「に応じた新しい対応」に修正します。
21	46P 本文2行目「質の高い教育実践」⇒「一人ひとりを大切に作る取組」 3行目「教育を行う……「よってたかって教育」は」⇒「教育を行っています。このことは」 下から2行目「教育活動」⇒「教育的な活動」	
22	47P 説明文5行目「などをまきこんだ「よってたかって教育」を」⇒「協働の取組を」	
23	文科省は教育振興基本計画で、「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」という課題を基本方針として示しており、この方針に沿った計画が望まれます。しかしながら、本市の計画は、文科省の方針に沿って策定されているように見えません。(文科省の計画概要版やリーフレットは非常に分かり易い。また、この方針を示すにあたり「不易と流行」という、ある種言い訳を記しているところはカワイイ)	国の教育振興基本計画における2つの基本コンセプトである「持続可能な社会の創り手の育成」と「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」については、本計画全体に通底する基本視点のなかに記載していると考えています。
24	次に香美市第2期教育振興基本計画案は第1期の計画との連続性ととられすぎていると感じます。教育基本法が改正され、第1期計画が作られた時点と現在とでは、政治的背景が大きく異なっており、改正教育基本法が国家主義と個人主義という対立の中で生み出された事を理解しているならば、この計画が目指す人のすがたを、郷土への愛着を持つ事としていたり、山田高校や高知工大への愛着を調査するという、個人の心を問うような行為を行っている点は、行政として危険な行動であると考えます。 私は、愛とは与えられた人の心に生まれるものであって、行動を起こす人が語るものではなく、それを語る人は偽物だと思っています。 まとめると、香美市の教育振興基本計画は、個人の幸せと社会の幸せを教育によって実現する方向を深く掘り下げるべきであったと考えます。	本計画で述べている郷土への愛着等は、国家主義的な権威や権力による統制ではなく、市民一人一人の心象風景として発露されるあたたかな気持ちを意味しています。 ご指摘の通り、「個人の幸せと社会の幸せを教育によって実現する方向」をめざす計画と考えています。
25	もう1点、文書として問題があると思うのが、言葉の使い方です。 「探求的学び」は業界用語的で一般人には意味が明確ではありませんし、「よってたかって教育」は、一般的に悪い結果をもたらす「よってたかって」を良い事をしようとする施策に用いることで、耳目を引くだけのキャッチフレーズになっていると感じます。 たとえば、「漁師が釣って漁師が焼いた」と言われれば、新鮮でおいしいはずだ、と思うかもしれませんが、それは受け手側の単なる妄想・思い込みに過ぎません。これが、15秒のCMなら、短時間で商品によい印象を形成させる秀逸なキャッチコピーなのでしょうが、行政文書に15秒の制約はありません。正しく内容を伝える言葉を選ぶ事が必要で、それが行政文書の第一の目的のはずで、文書としての品位を保つためにも一考をお願いします。 なお、この秀逸なキャッチコピーやその作者に対し、私は何の意見も意図も無いことを申し添えておきます。	(再掲) 「香美市よってたかって教育」については、令和5年度市議会12月定例会議一般質問における教育長答弁の通り、次期計画においても引き続き使用する方向です。 (答弁の概要) 教育振興基本計画検討委員会においては、本市の教育の特性を一言で表現しているキャッチフレーズであり、令和4年度に実施したアンケート結果でも保護者を中心に一定浸透しているという意見があった。現状、代替表現がないことから、引き続き使用する方向である。